

セッション2

世界経済情勢の見通し

ロバート・B・ゼーリック

目

次

1. 世界経済
2. 米国経済
3. 二つのリスク

4. 中国経済
5. 日本経済

1. 世界経済

世界経済は総じて堅調だが、警戒すべき兆候がないわけではない。2017年は、世界のGDPの3分の2を占める約120カ国で成長が加速し、このトレンドは18年、19年も続くとIMFは予測している。更に言えば、17年は近年では初めてG20の全ての国・地域がプラス成長を達成し、世界の80～90%の国・地域が潜在成長率を超える成長を示した。これは成長のエンジンが複数あり、一カ国、もしくは一握りの国が世界経済を牽引する時代ではなくなっていることを意味している。また、インフレ率も世界的にかなり低水準にある。これらの良好な環境の恩恵を受け、企業収益は世界的に堅調である。

2. 米国経済

米国企業の業績はかなり好調で、財務も健全な状態にある。今後数年間、設備投資やM&Aの活発化に加えて自社株買いなどが拡大することにより、1株当たり利益は更に高まるだろう。景気回復局面の中盤からは、個人消費が主導的な役割を果たしている。雇用が増え、所得が伸びた結果、GDPの約70%を占める個人消費が堅調に推移している。住宅の回復が若干遅れたのは、過去のサブプライムローン問題に加え、若年層の需要パターンが変わってきたことも一因だろう。現在、最も注目すべきは、設備投資の強さである。減税、規制緩和、そして世界的な景気回復を受け、企業経営者の経済に対する信認が高まったことが背景



ロバート・B・ゼーリック (Robert B. Zoellic)

アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー 取締役会会長。世界銀行総裁 (2007–12年)、米国国務副長官 (05–06年)、米国通商代表 (01–05年) などの要職を歴任し、レーガン大統領及びブッシュ (父) 大統領の政権下でも多数の要職に任命される。民間企業では、ゴールドマン・サックスの副会長 (国際業務担当) や同社の国際アドバイザー理事会会長などを歴任。ハーバード大学ケネディ・スクールのシニア・フェローも務め、ハーバード大学ロースクールにて法務博士号 (J.D.) を取得。17年5月より現職。